

月刊

GPP



Vol.58

令和2年8月号

株式会社
グロースパートナーズ

○いよいよ始まる“残コン・戻りコン”ソリューション○

連日の猛暑。コロナ以前にこの環境でオリンピックを開催していたら、何人かは犠牲者が出ているのではないかと、真剣に思えてくる。

自宅に太陽熱温水器を設置しているが、家事もお風呂もガスが全く不要な日々を過ごしている。

先月号でもお伝えしたが、東京大学大学院工学系研究科・野口貴文教授により、新素材からの生コン製造や残コン・戻りコンを再利用する為のキックオフミーティングが、いよいよ8月19日に開催されることとなった。

コロナの影響もあって、多くがZOOMによる参加になるが、国土交通省、経済産業省、環境省、大手ゼネコンやセメント・生コン関係者、更には建設業界大手3紙と総勢80名が参加予定である。

セルドロンが直接的にかかわるのは“残コン・戻りコン”の分野であるが、唯一NETISという公共機関に登録されている製品として、しっかりプレゼンをしたいと思っている。

残コンは納品される生コン総数の3～5%発生していると言われており、毎年日本では東京ドーム2～4個分、世界に目を向ければ100～180個分もの“残コン・戻りコン”が発生しているのだ。想像するだけでも恐ろしい光景である。

こんなに多量の“残コン・戻りコン”が発生しているにも拘らず、今までちゃんとした論文発表や実態調査がなされていないから驚きである。

これは日本だけの話ではなく、世界を見渡しても存在していない。

野口先生によると、この“残コン・戻りコン”に広く、深く携わることを目的とした業界を横断した一般社団法人を設立されるとのこと。

毎年膨大に発生している“残コン・戻りコン”が循環資源として再利用されることは、地球環境にとっても大きな意味を持つことは間違いない。

しかも、日本発信で世界に提案するという規模感がとても魅力的であり、8歳の娘を持つ身としては、持続可能な社会を次の世代に引き継ぐことは我々の責務だと強く感じている今日この頃、この新団体に積極的に参画していきたいと考えている。

藤井 成厚

発行：株式会社グロースパートナーズ

セルドロン実験会開催

竹中工務店様主催でセルドロンの実験が行われました。(2回目)

以前に、竹中工務店様主催のセルドロン試験施工の様様をお伝えしましたが、前回の試験結果が好評だったため、再度行われました。

今回も多くの見学者が集まり、この技術を有効活用する話し合いが行われました。

前回は、少量の残コンをフネにとって人力で攪拌しましたが、今回は、生コンクリートアジテータ車のドラムを使用して攪拌しました。

ドラムに残る0.5m³の残コンにセルドロンを添加して2分回転させるだけで、碎石状になった残コンを排出できます。排出直後は、湿っている状態でしたが、翌日には水気もなくなり産廃業者が持ち帰れるレベルまで品質も改善していました。

また、セルドロンをドラム内にいれた、アジテータ車の運転手にヒアリングを行いましたがいっつもの通常洗浄のレベルで次の製品積込の影響もないとのことでした。

次回は、現場での施工を計画中です。
またご報告させていただきます。

残コンが発生しないことが一番良いことですが、もし発生してしまった場合や先送りモルタルのような必ず発生してしまう残コンの処理に、セルドロンをお試ください。

